中部経済新聞　2009年（平成21年）5月20日　水曜日

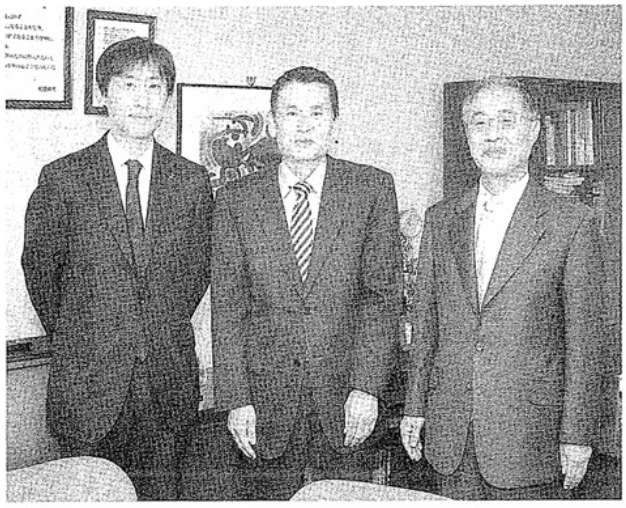
跡継ぎ 天職として

株式会社 ハナノキ 代表取締役副社長 池山 真一郎氏

無洗米―美味しい上に便利

良質米の安定確保を

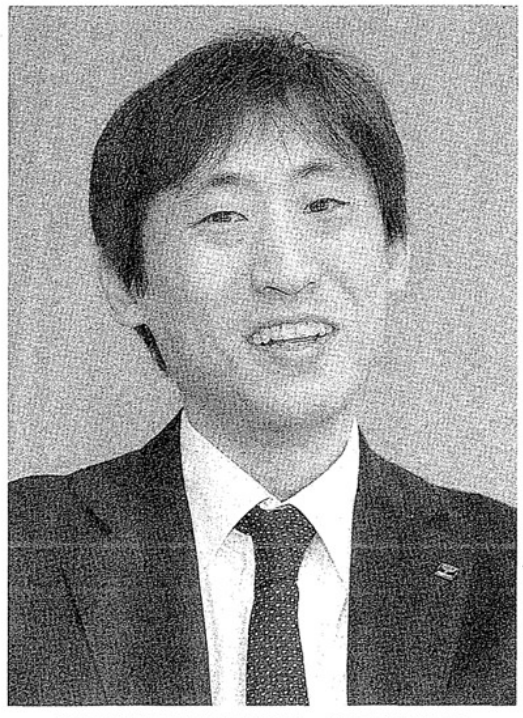
"恕"の心で経営に当たる



役割分担で組織の近代化に励む＝左から池山真一郎副社長、山内正道社長、池山健次会長（社長室で）

平成17年11月、主力となる瑞浪工場地鎮祭を終えて記念撮影＝前列中央池山健次社長（当時）神主の右後真一郎常務（同）

父母とともに和やかな家族写真＝後列左側が長男真一郎さん・紀子さん夫妻



「不易流行」を座右の銘として、伝統を超えるべく励む五代目の真一郎さん

池山真一郎氏の略歴

平成７年３月　獨協大学卒業
平成７年４月　旺文社入社
平成12年11月　同社を辞し、家業の「株式会社ハナノキ」に取締役として入社
平成16年２月　代表取締役常務
平成20年８月　代表取締役副社長
昭和46年４月27日、愛知県西春日井郡西春町（現北名古屋市）生まれ
家族　紀子夫人と二男

池山真一郎氏の現職

◇副社長＝株式会社ハナノキ
◇公職＝名古屋青年会議所会員

平成７年４月、旺文社入社時の池山さん＝後列右から２人目

３歳の真一郎くん

池山真一郎（いけやま・しんいちろう）さん。業務用米穀卸の大手『株式会社　ハナノキ』（本社北名古屋市井瀬木井の元三六）の若き五代目。現在は代表取締役副社長。大学を出てマスメディアの世界に飛び込んだ。五年ののち、故郷に戻る。家業の「ハナノキ」に取締役として入社。まず、社内の近代化・体制固めに取り組む。さらに〝新しい流通分野〟を見据えた大きな視野の持ち主。会長―社長―副社長の役割分担をきっちり。「恕の心」を自らに課して。

（論説委員　加藤忠篤）

株式会社　ハナノキ―。創業は遠く明治四十年までさかのぼる。愛知県西春日井郡西春村（当時）で、曾祖父が米穀販売業を始めたのを嚆矢とする。昭和四十一年、家業を法人化「有限会社　池山米穀店」とし、この年十月、西春日井郡師勝町に本社社屋、大型精米工場、配送センターが完成、飛躍への地固めが出来た。

五代目となる真一郎くんが生まれたのは昭和四十六年四月二十七日。父は健次さん、母は朝子さん。のちに妹を得るが、男は長男の真一郎くん一人。大事な跡取りだ。

父母の慈愛を一身に、すくすくと成長、東海中学・高校を経て獨協大学を卒業。平成七年三月のことである。

翌四月、旺文社に入社した。「五年半あまり、あっと言う間だった。仕事は面白かった。父親から〝戻って来い〟と言われたときは本当に悩んだ。直属の上司が、わざわざ名古屋まで来て、父社長に〝旺文社にとっても大事な人間。辞めさせないであげてほしい〟とまで言ってくれたのだが…」

結局、平成十二年十一月、旺文社を辞して故郷の〝ハナノキ〟に取締役として入社したのである。管理本部長委嘱。

「まず社内の体制をしっかり掌握し、次の段階を」

父社長の〝親心〟に他ならない。

真一郎さんも、それに応えた。

平成十四年四月には山内正道氏を取締役・営業部長に迎え、同十六年二月副社長、翌十七年八月には社長とし、健次社長は会長となった。

さらに、父会長は、長男真一郎を平成十六年二月に代表取締役常務、同二十年八月には代表取締役副社長と昇格させ、英才教育を続けている。

「会長の私も社長も営業畑出身。いわば川下。だから、副社長には川上の仕入れ部門を重点的にやってもらうことにした」

会長―社長―副社長の役割分担に至るまで、長期的な視野から、眷々と手を打っているのである。

「ボクの当面の仕事は、良質なコメの安定供給ルートを確立して、末端で競合する大企業に勝てるようにすること」

懸命に取り組む真一郎副社長。

そのため、理想的な〝コメ〟を求めて、情報収集に余念がない。

無洗米―。

最大の〝売り〟は、水洗いの要らない便利さ。加えて、白米に負けないハナノキ独自の美味しさ。そのため、瑞浪工場へ最新鋭設備を導入した。今や、同社の主力製品だ。

「最高のコメを提供している。生産ラインも増設した」

担当の真一郎副社長は力強く説明した。

生活様式の変化に合わせ、外食、量販への販路拡大と共に、楽天市場にネットショップ「ハーベストシーズン」を出店。無洗米部門では、トップをばく進中だ。

副社長は名古屋ＪＣの現役。人脈も豊か。忙しい。

「かつては写真撮影だったが、今は仕事が趣味かな」

〝恕の心〟を座右に、飛び回る日々である。